



◆ 避難所のトイレ問題

- ・停電、断水、排水管の損傷など様々な理由で水洗トイレは使えなくなります
→ 水が流れないトイレを使用したら、あっという間に便器内は大小便の山
- ・避難所に沢山の人が避難すると、一番は避難者の場所の確保を考えてしまいますが...
→ 災害が起きる前に避難所のトイレ問題を考えていざとなった時に対応できるように対策を!

食事はある程度の時間我慢できますが、トイレに行きたいときに我慢はそんなにできません!

※1995年に発生した阪神・淡路大震災で、トイレパニックが起きているにも関わらず、2024年の能登半島地震でも同様のパニックが避難所で起きました → 対応策が進んでいない

トイレ問題が引き金になっていろいろな問題が発生します

それでも
避難所に行く?

水洗トイレが
使えない

- ・断水や排水設備などが被災し、使えなくなる
→ 生活インフラは概ね「電気→ガス→上下水道」の順で仮復旧
→ 復旧まで多くの時間が必要

トイレが大小便で
一杯になる

- ・水が流れないトイレでも使用してしまう
→ 汚物が溜まる

トイレが嫌になる

- ・くさい、汚い、暗い、怖い、寒い、遠い、
男女共用、数が少ない、段差があり危ない(のぼりにくい)
- ・要配慮者(障害者、女性や子ども、高齢者等)は使いにくくなる
- ・公衆衛生の悪化による感染症の蔓延

飲まない
食べない

- ・トイレに行くのが嫌で、水分や食事を控えてしまう

病気になる

- エコノミッククラス症候群(深部静脈血栓症/肺塞栓症)や持病の悪化など、
様々な理由で健康を害し、死に至ることもある
→ 最悪の場合「災害関連死」になる

コミュニティで
ケンカが起き出す

※2024年の能登半島地震にて、大阪市の職員が能登半島に支援に行ったとき、仕事はトイレ清掃がほとんどだった人もいます
自分自身の衛生対策もそこそこに、感染症対策として綺麗に保つために掃除をしていたそうです

日本トイレ研究所より参照

<https://www.toilet.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/13/redbook2.pdf>



◆ 災害が起こればトイレも被災します!

災害のない時に、避難所のトイレ問題を再確認する必要があります
 福島区では災害時は在宅避難を呼びかけてますが、まだまだ区民に浸透されていません
 なので、多くの人が避難所に避難することが考えられます
 断水や排水設備などが被災し、トイレが使えなくなる対策をしましょう
 マンホールトイレといっても上流から流す水が無ければ、穴を塞がれるのも時間の問題です

【屋内で使用】

携帯トイレ

● 自宅での備蓄が可能

- ・在宅被災者等が自宅等でも使用できる
- ・蓄便袋、凝固剤、便収納袋を備蓄
- ・既存の洋式便器につけて使用する便袋タイプ
- ・使用するたびに便袋を処分する必要がある
- ・消臭剤がセットになっているものや、臭気や水分の漏れを更に防ぐための 外袋がセットになっているものもある



簡易トイレ

【一体型】

- ・室内に設置可能な小型で、持ち運ぶことができる
- ・便座と一定の処理がセットになっており、し尿を貯留できる



【組立式】

- ・在宅被災者等が自宅等でも使用できる
- ・使用するたびに便袋を処分する必要がある
- ・持ち運びが簡単であるため、被災者が家族・仲間で共有できる
に段ボール、新聞紙、テープを使って作成することができる



※手洗いができないので、アルコール消毒、トイレ消毒・清掃の徹底が必要



防災グッズよりトイレ関連の備蓄が大切!

- 断水や排水設備などが被災し、使えなくなる
 - 今あるトイレにビニール袋を2重にして使う簡易トイレを活用
 - 備蓄には蓄便袋、凝固剤、便収納袋をたくさん必要

● トイレtpペーパーも備蓄品に追加

防災グッズにトイレtpペーパーが無いのはなぜ?

- 避難所にトイレtpペーパーが無いって知ってますか?
- 有ったとしても、十分にありません



● 食パンの袋を活用

食パンが入っている袋を便収納袋に活用するとコスト減になります

- 食パン袋は意外と臭いを外に出さない仕組みになっています
- 明日の朝のパン袋を貯めていざというとき使いましょう





【屋外で使用】

仮設トイレ

(汲み取り)

- ・イベント時や建設現場で利用されることが多い
- ・仮設トイレを設置する時には、特に高齢者や女性の避難者が利用しやすい場所を
- ・優先する必要がある

マンホールトイレ

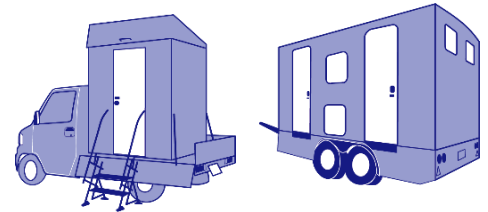
(下水道)

- ・下水道のマンホールや、下水道管に接続する排水設備上に、便器や仕切り施設等を設置するもの
- ・本管直結型及び流下型のマンホールトイレは、下流側の下水道管や処理場が
- ・被災していない場合に使用することが原則である

車載トイレ

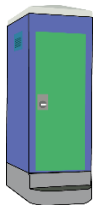
トイレトレーラー

- ・トイレ設備を備えた車両を指し、し尿を貯留するタイプや処理装置を備えたタイプがある
- ・処理方式の違いで、使用可能回数が異なる



Point

仮設トイレ



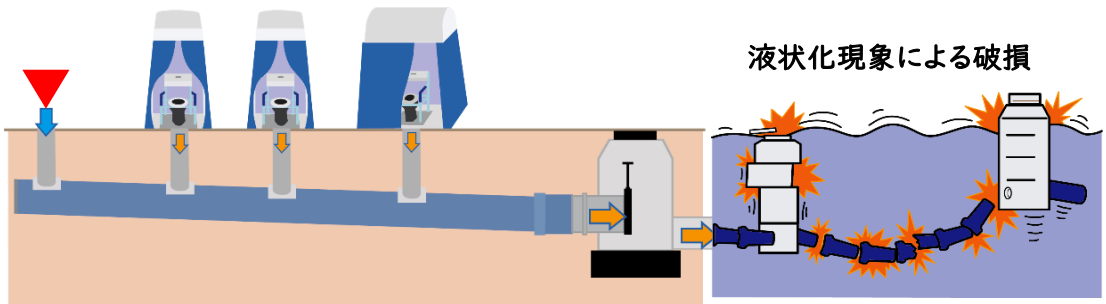
災害が大きいほど仮設トイレは避難所に届きません
業者も被災しています
運ぶための道路がどうなっているかわかりません

運ばれたとしても、すぐに一杯になります
→ ごみやし尿の収集運搬車両が大阪市には少ないです



Point

マンホールトイレ



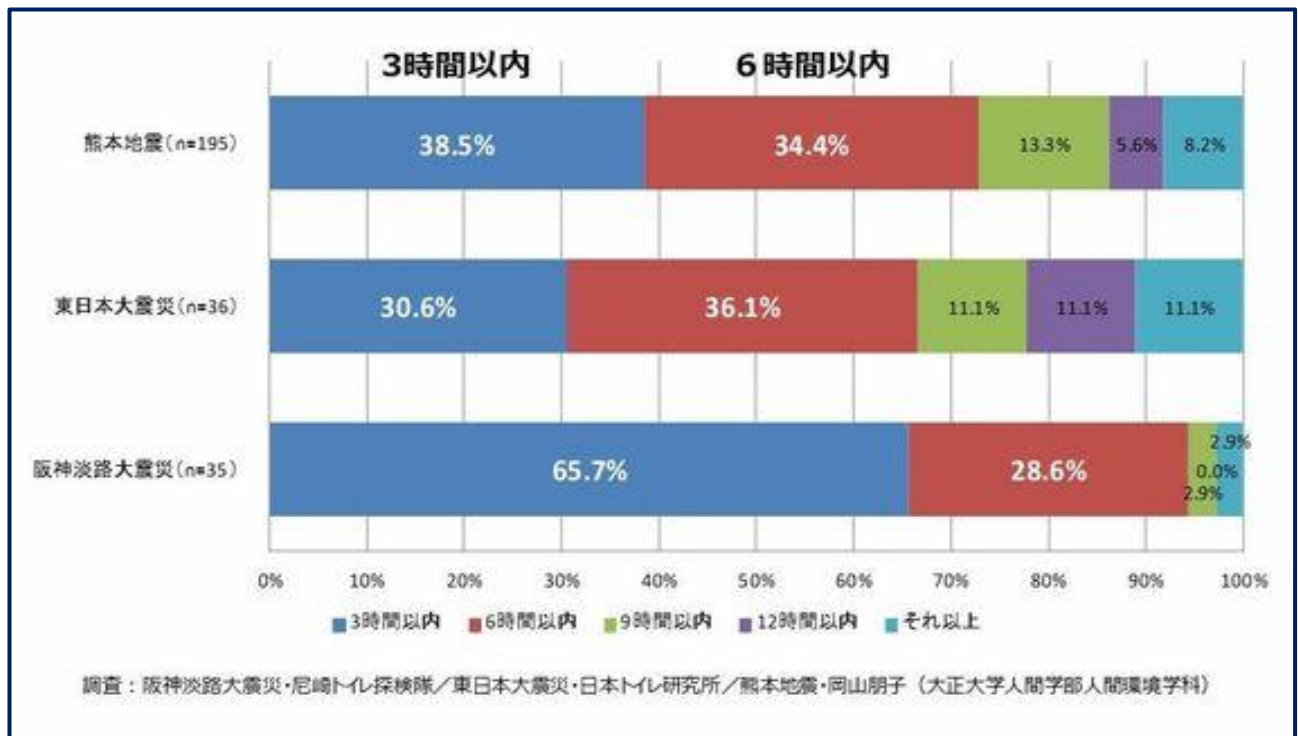
▼から水をながさないで、溜まる一方で長く活用できません

液状化による下水道破損していると、マンホールトイレは機能をはたさないで、下水道の確認が必要です



◆ 避難所のトイレを掃除するのは避難者達ですよ!

- ・避難所での避難生活においては、インフルエンザや肺炎、感染性胃腸炎等の感染症対策が必要です
- ・新型コロナウイルス感染症対策が喫緊の課題となっています
- ・トイレの備えがなければ、その場の環境が不衛生となるため、健康維持が困難となり感染症の発生リスクも高まります
- ・ノロウイルスを保持した人の排泄後、便器だけでなく周囲環境（便器からの飛び散りや当該者の手によって汚染される）が汚染させる可能性が高い事も理解して対応する必要があります
- ・避難先とトイレ対策をセットで考える必要があります



東洋経済オンライン参照

<https://toyokeizai.net/articles/-/657570>



◆ 備蓄品より大切なトイレの作り方

地震により自宅の下水管が壊れたり、外では液状化による下水道管自体が機能しなくなる可能性があり、トイレが使えなくなります。また、避難所でも同様に使用不可になり、清潔さが保たれず不潔になり、感染症など他の病気の原因になります。簡易トイレの作り方を理解しておきましょう。



① 間違って流すことが無いように、排水レバーをガムテープで止めます



② 便座を上げて大きなポリ袋を便器に入れます



③ そのまま便器を覆い下をガムテープで固定します



④ その上から黒いビニール袋をかぶせます
※説明しやすいように色を分けてますが、同じ色でも大丈夫です



⑤

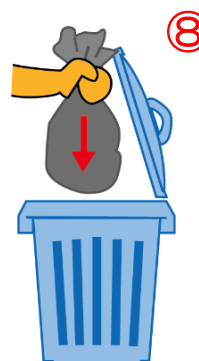


⑥

便座を下ろして用を足します
黒いゴミ袋の中に
・細かく切った新聞紙
・ポリマーシート
・ペット用トイレシート
などを入れておくか
用を足した後に
・凝固剤
などを使用する方法もあります



⑦ 黒いポリ袋を取り出し、空気を抜いて口を強くしばります



⑧

ふたのある容器に保管します

ごみ収集が始まったら燃えるゴミとして出します